

校長 泉谷 俊郎



ご卒業おめでとうございます。今年度もこのような状況の中で高校生活を送ることになりましたが、皆さんは、その中で自分たちにできることを考えて楽しく有意義に過ごすことをめざしていろいろな活動に取り組んでくれました。そこから多くのことを得てくれたことと感じています。皆さんへのラストメッセージとしてこのイラストを送ります。この絵から何を感じますか。もともとは錯視に関連する

むしろそれが本来の見方かもしれせん。しかしそれだけではもったいないので少し深く考えてみたいと思ひます。さらにそこから何かを感じ取る事ができると思ひませんか。そこからの方が楽しいところ。同じものを見ても思ひ込みというもので物は見えているという事に気づきます。ヒトの脳の不思議さにいきつくこともできるでしょう。そこから目と脳の画像処理や役割について探究してみることでもできま

す。階段の面や上下とか上り下りなどの思い込みと決めつけて、
がどうやってできるのか。だれがどう思いつい何をめざして
作図したのだろうか。この図に至る経緯として中間的な段階
の図はあったのだろうか。バリエーションや発展形はあるの
か。立体で作れないだろうか。（作った人がいます）など、
一つは、このように少しでも関心を持ってほしいということだ
て探究してみようという発想をもってほしいということだ
もう一つは、例えば読み取りとしてこのような見方をする
こともできるのではないかと思つています。複雑な話になり
ますが、この絵にはこちらの人の人となりの人があるわけ
こちらから見たらあちらの人は変な人だしありえない。だけ
どそれは同時にそちらから見たら自分もそうなっていること
でもある。この絵を見てそういつたことを考えることができる
ます。今回はさらに「二人とも変だよ」と見ているネコを加
えてみました。

実は世の中ではよくそういつたことがあると思ひませんか。
私自身もついついその状況に陥りそうになります。が、まとも
なのは自分でそのまともな自分から見ると相手の方がおかし
いと思ひ込んでしまひ、その基準で話したり考えたりしてし
まうことが。そのようない時は相手も同じようにこちらに對し
ておかしいことを言つてゐると感じてゐるのかも知れませ
ん。どの視点からどう見るか、そしてそれをどう考えるか。ず
っと皆さんに伝えようとしてきた見方と考え方の話です。そ
してどう行動するか、が一人一人の将来を形作つていくとい
うことです。主眼者としての主観的な自分の考えを大切に
つづつ、「客観的視点から見た自分の考え」をときおり見つ
めることで、社会における自分の考えの位置を把握できるこ
とになります。その視点をもつことで状況の中でのより良い
考えが見つかりやすくなると思ひます。そして、目指す目標
達成に近づく行動に繋がつていくはずで。さあ未来に向
かつて自らを磨いて思ひ存分行動しましう。皆さんの将来
を樂しみにしてゐます。